

令和 8 年 8 月 7 日
気象庁大気海洋部

配信資料に関するお知らせ

～「大雨警報（浸水害）・洪水警報の危険度分布（統合版）」の
配信資料に関する仕様 No. 10705 の一部変更について～
（配信資料に関する技術情報第 446 号, 第 577 号, 第 664 号関連）

「大雨警報（浸水害）・洪水警報の危険度分布（統合版）」の配信資料に関する仕様 No. 10705 について、配信資料に関する技術情報第 446 号、第 577 号及び第 664 号で掲載した仕様から、情報名称の変更などに伴い、別添のとおり一部記述を変更しましたのでお知らせします。

配信資料に関する仕様 No. 10705

～大雨キキクル~~警報(浸水害)・洪水警報の危険度分布(統合版)~~～

1. 概要

大雨~~キキクル警報(浸水害)・洪水警報の危険度分布(統合版)~~は、~~大雨警報(浸水キキクル害)の危険度分布~~と洪水~~キキクル警報の危険度分布~~の危険度判定値を 1km メッシュ毎に比較し、高い方の危険度判定値を 1km メッシュ毎に 5 段階で示した分布情報です。

日本国内の陸上を対象に、地表面を約 1km 四方の領域（緯度 0.5 分・経度 0.75 分）に分割し、それぞれの領域で計算します。

この分布情報により、~~大雨警報(浸水キキクル害)の危険度分布~~と洪水~~キキクル警報の危険度分布~~を別々に確認しなくとも、より迅速に、大雨による浸水害及び中小河川の洪水災害発生の危険度の高い地域を包括的に把握することができます。

2. ファイル形式及びデータの概要

大雨~~キキクル警報(浸水害)・洪水警報の危険度分布(統合版)~~のファイル形式は、国際気象通報式 FM92 GRIB 二進形式格子点資料気象通報式（第2版）（以下 GRIB2）です。

具体的なデータフォーマットについては別紙1を参照願います。

ファイル形式		GRIB2
格納要素		浸水 危険度判定値 と・洪水危険度判定値 の最大値
格子系	格子系	等緯度経度
	配信領域	北緯 20 度～48 度 東経 118 度～150 度（図1 参照）
	格子の間隔	0.0083 度（緯度）×0.0125 度（経度）
	格子の数	3360（緯度）×2560（経度）
予報時間等		大雨警報(浸水キキクル害)の危険度分布 及び洪水 キキクル警報の危険度分布 の最大危険度判定値を出力
作成頻度		10 分毎
ファイルサイズ		30KB

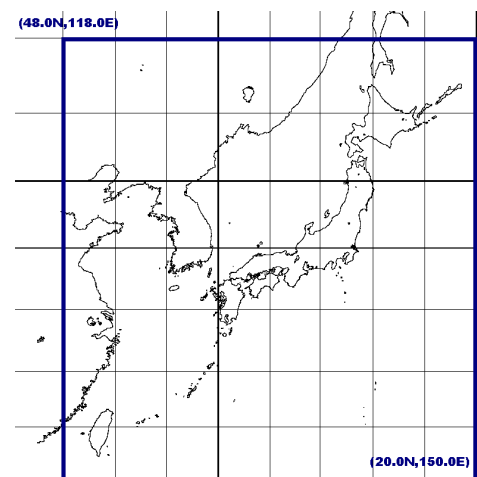


図1 計算領域（計算対象は国内陸上格子）

3. ファイル名

- ・大雨~~キキクル警報(浸水害)~~・洪水~~警報の危険度分布(統合版)~~

Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_GPV_Ggis1km_P1fdc_Aper10min_FH0000-0300_grib2.bin

※ Z と C の間にはアンダースコアが 2 個設定されている点に注意してください。その他のアンダースコアは 1 個です。yyyyMMddhhmmss はデータの年月日時分秒を UTC（協定世界時）で表します。

4. サンプルデータ

サンプルデータは（一財）気象業務支援センターに提供しておりますので、必要な場合は同センターへお問い合わせください。

5. 利用にあたっての留意事項

別紙 2 を参照願います。

6. 障害時やメンテナンス時の対応

システム障害等により、当該気象情報の作成が不可能となった場合、データの再送は行いません。あらかじめご承知おきください。

【改訂履歴】

- 令和 8 年 8 月 7 日

新たな防災気象情報の運用開始に伴う変更。本紙及び別紙を改訂。

節番号	節の名称・該当テンプレート	オクテット	内容	表	値	備考
第0節	指示節	1~4	GRIB		"GRIB"	国際アルファベットNo.5(CCITT IA5)
		5~6	保留		missing	
		7	資料分野	符号表0. 0	0	気象分野
		8	GRIB版番号		2	
第1節	識別節	9~16	GRIB報全体の長さ		*****	
		1~4	節の長さ		21	
		5	節番号		1	
		6~7	作成中枢の識別	共通符号表C-1	34	東京
		8~9	作成副中枢		0	
		10	GRIBマスター表バージョン番号	符号表1. 0	9	現行運用バージョン番号
		11	GRIB地域表バージョン番号	符号表1. 1	1	地域表バージョン1
		12	参照時刻の意味	符号表1. 2	0	解析
		13~14	資料の参照時刻(年)		*****	
		15	資料の参照時刻(月)		*****	
		16	資料の参照時刻(日)		*****	
		17	資料の参照時刻(時)		*****	
		18	資料の参照時刻(分)		*****	
		19	資料の参照時刻(秒)		*****	
		20	作成ステータス	符号表1. 3	T	0=現業プロダクト、1=現業的試験プロダクト
		21	資料の種類	符号表1. 4	2	解析及び予報プロダクト
第2節	地域使用節	不使用				
第3節	格子系定義節	1~4	節の長さ		72	
		5	節番号		3	
		6	格子系定義の出典	符号表3. 0	0	符号表3. 1参照
		7~10	資料点数		*****	図1の例(20~48N,118~150E)では、2560*3360=8601600
		11	格子点数を定義するリストのオクテット数		0	
		12	格子点数を定義するリストの説明		0	
		13~12	格子系定義テンプレート番号	符号表3. 1	0	緯度・経度格子
		15	地球の形状	符号表3. 2	4	GRS80回転楕円体
		16	地球球体の半径の尺度因子		missing	
		17~20	地球球体の尺度付き半径		missing	
		21	地球回転楕円体の長軸の尺度因子		1	
		22~25	地球回転楕円体の長軸の尺度付きの長さ		63781370	
		26	地球回転楕円体の短軸の尺度因子		1	
		27~30	地球回転楕円体の短軸の尺度付きの長さ		63567523	
		31~34	緯線に沿った格子点数		*****	図1の例では2560
		35~38	経線に沿った格子点数		*****	図1の例では3360
		39~42	原作領域の基本角		0	
		43~46	端点の経度及び緯度並びに方向増分の定義に使われる基本角の細分		missing	
		47~50	最初の格子点の緯度	10**-6度単位	*****	図1の例では、48N-0.5/60/2=47995833
		51~54	最初の格子点の経度	10**-6度単位	*****	図1の例では、118E+0.75/60/2=118006250
		55	分解能及び成分フラグ	フラグ表3. 3	0x30	
		56~59	最後の格子点の緯度	10**-6度単位	*****	図1の例では、20N+0.5/60/2=20004167
		60~63	最後の格子点の経度	10**-6度単位	*****	図1の例では、150E-0.75/60/2=149993750
		64~67	i方向の増分	10**-6度単位	12500	0.75/60
		68~71	j方向の増分	10**-6度単位	8333	0.5/60
		72	走査モード	フラグ表3. 4	0x00	
第4節	プロダクト定義節	1~4	節の長さ		34	
		5	節番号		4	
		6~7	テンプレート直後の座標値の数		0	
		8~9	プロダクト定義テンプレート番号	符号表4. 0	0	テンプレート4. 0
		10	パラメータカテゴリー	符号表4. 1	1	湿度
		11	パラメータ番号	符号表4. 2	218	浸水・洪水危険度判定値
		12	作成処理の種類	符号表4. 3	0	解析及び予報(解析=0で代表設定)
		13	背景作成処理識別符	符号表JMA4.1	150	短時間予報ルーチン
		14	予報の作成処理識別符		missing	
		15~16	観測資料の参照時刻からの締切時間(時)		0	
		17	観測資料の参照時刻からの締切時間(分)		10	
		18	期間の単位の指示符	符号表4. 4	0	分
		19~22	予報時間		0	
		23	第一固定面の種類	符号表4. 5	1	地面または水面
		24	第一固定面の尺度因子		missing	
		25~28	第一固定面の尺度付きの値		missing	
		29	第二固定面の種類	符号表4. 5	missing	
		30	第二固定面の尺度因子		missing	
		31~34	第二固定面の尺度付きの値		missing	
第5節	資料表現節	1~4	節の長さ		*****	
		5	節番号		5	
		6~9	全資料点の数		*****	図1の場合、2560x3360=8601600
		10~11	資料表現テンプレート番号	符号表5. 0	200	格子点資料ランレングス圧縮
		12	1データのビット数		8	
		13~14	今回の圧縮に用いたレベルの最大値V		V	Vは可変(<=M)
		15~16	データの取り得るレベルの最大値M		10	
第6節	ビットマップ節	17	データ代表値の尺度因子		1	通報する代表値は10**1倍されている
		16+2×m~17+2×m	レベルmに対応するデータ代表値を繰り返す(m=1~M)		R(m)	m=1~M、レベル0は欠測値(海上)
		1~4	節の長さ		6	
第7節	資料節	5	節番号		6	
		6	ビットマップ指示符		255	ビットマップを適応せず
		1~4	節の長さ		*****	
第8節	終端節	5	節番号		7	
		6~nn	ランレングス圧縮オクテット列		D	資料テンプレート7.200で記述された形式
第8節	終端節	1~4	7777		"7777"	国際アルファベットNo.5(CCITT IA5)

(注) 値が「missing」の場合、そのデータは全ビット1の値、英数字の変数名や「*****」は可変を示す。

(注) 負の値は最上位ビットを1にすることにより示している。

【参考】 2026 2017年5 3月28 31日現在のレベル値と代表値

レベル値	代表値	意味
0		欠測値
1	0 0.0	(浸水・洪水危険度判定値 0)
2	10 1.0	(浸水・洪水危険度判定値 1)
3	20 2.0	(浸水・洪水危険度判定値 2)
4	30 3.0	(浸水・洪水危険度判定値 3)
5	40 4.0	(浸水・洪水危険度判定値 4)
6	50 5.0	(予備)
7	60 6.0	(予備)
8	70 7.0	(予備)
9	80 8.0	(予備)
10	90 9.0	(予備)

レベルに対応する代表値は、必ずGRIB2通報式に埋め込まれたものを利用すること(なお、提示後に変更する可能性がある)

大雨キキクル警報(浸水害)・洪水警報の危険度分布(統合版)の利用にあたっての留意事項

- (1) ~~大雨キキクル警報(浸水害)・洪水警報の危険度分布(統合版)~~は、~~大雨警報(浸水キキクル害)の危険度分布~~と洪水キキクル警報の危険度分布を包括的に示しているものであるため、以下の点に留意してください。
- ① 氾濫が発生した場合の氾濫水の移動までは考慮されていません。洪水予報河川や水位周知河川については氾濫が発生した場合の洪水浸水想定区域が指定されているところがありますので、自治体が公表している洪水ハザードマップを参照してください。
 - ② 洪水災害に関しては、中小河川の外水氾濫による洪水危険度の高まりを伝えるものです。洪水予報河川の外水氾濫については河川管理者と気象台が共同で発表している指定河川洪水予報を、水位周知河川については河川管理者が発表する水位情報をそれぞれ踏まえた解説を行う、もしくは、指定河川洪水予報や水位情報に留意した利用を促すことが必要です。
 - ③ 洪水災害に関しては、避難などの判断への利用やその解説にあたっては、自分がいる地点だけでなく、氾濫等が発生した場合において自分がいる場所に命の危険を及ぼす可能性のある河川の危険度を確認するよう留意してください。その際には、危険度の高い状況は上流から下流へ移動してくる傾向がありますので、上流地点の危険度も含めて確認するようにしてください。
 - ④ 浸水害に関しては、個々の地下施設や道路の危険度の高まりを表すものではなく、その場所に降った雨に基づく浸水害発生危険度を1kmメッシュ単位で把握するためのものです。
- (2) ~~大雨キキクル警報(浸水害)の危険度分布や洪水警報の危険度分布~~は、大雨の警報注意報等、~~・洪水注意報・大雨警報(浸水害)・洪水警報・気象防災速報(記録的短時間大雨)情報~~等と合わせてご利用ください。例えば、大雨の警報や洪水警報等が発表されたときに、実際に浸水・洪水危険度が高まっている地域については大雨キキクル警報(浸水害)・洪水警報の危険度分布(統合版)で確認する、といった利用が有効です。なお、大雨の警報や洪水警報等は、気象状況等を総合的に判断して発表するため、これらの発表状況と大雨キキクル警報(浸水害)・洪水警報の危険度分布(統合版)は完全には整合しない場合もあります。